（大正十二年十一月八日第三種郵便物認可）　昭和十二年四月九日　常磐每日新聞　［金曜日］　第三千八百八十九號　［一］

驚異的の增收

煙草の賣上　管內第一

好景氣を反映した平地方

專賣局が百萬突破を目標

水戸地方專賣局平出張所に於ける昨十一年度中の煙草總賣上高は七十五万五千圓、前年度に比し七万二千圓の驚異的增額で水戸管內及び東北六縣下に於ける第一位の最高增收を示して居るこれらは常磐炭鑛のインフレ並に石城各濱の關係氣運の反映したもので年を通じての最高賣上月は下半期一月の七万四千七十三圓、上半期の八月六万二千五百圓がこれに次ぎ兩切バットの如きは依然大衆嗜好煙草として總賣上高の約五割、三十二万四千圓の飛大な額に達してゐる、尙去月中の賣上は七万三十五圓で前年同期に比し九百圓の增加、何と云つてもバットの二万六千八百六十五圓が首位とし其他主なるもの左の如し

△チエリー一、五〇七圓　△みのり一、五二圓　△敷島一、五五四圓　△はぎ七、五〇圓　△なでしこ八、〇二圓　二九二圓

最高級品敷島がみのり同等位に捌ける樣になつたのは一般に値段に順容せず煙草の眞價を知られて來たものと喜ばれてゐる因に同出張所では今後平市が實現され小名濱港が商港となつた際は一ケ年間の賣上げ高百万圓突破の目標を建て意氣込んでゐる

對し嚴重取締りの打合せを行ひ政界淨化に資せんとするものである

泉校長慰勞　泉村は過般の異動に依り須賀川第二校に榮轉された中野目校長に慰勞金百四と大鉢を贈つた

平土木委員會

平町土木委員會は明九日午後一時から開き左記件を附議

△町有地緣故拂下願ひの件、△町有地特賣願ひの件、△工事竣工期延期願の件、△道路公用願の件、△公園地煙草行商願の件

天候豫報

今晩は北東の風　曇後雨　明日は北の風　曇後雨

昭和十二年四月八日　夕刊
常磐每日新聞社
常磐每日印刷株式會社

値段に頓着なしない

氾濫が　反映したもので年を通じての最高賣

松林にキリを混植

平營林署が奬勵

造林の多角化時代

双方がスクく育つ

平營林署では造林經濟の見地から杉と桐の混植林業を奬勵する事となつた是れは杉は一般に地味豊かな林業地としては一等地を選んで造林するのであるが杉が成材となるには卅年から五十年を要するので杉苗の幼い間土地を徒らに遊ばしておく事が不經濟であるばかりでなく林地の肥料を損失し雜草雜木のはびこるところとなるので此空間地に比較的生長の早い桐の混植を考へついたもので

此間事業區西山國有林は昭和九年に植の結果十年には桐苗の收穫りをやり今冬は既に目通り九センチ、樹高七メートルに生長し成功を承して居るしかも桐樹のため手入れをよくしかつ杉樹の生長にも非常によく桐の方はこの分では十年後には伐られるから杉が幼いうちに二回位は桐の收獲が出來るわけで營林署もこの成績に鑑み自信をもつて當業者に奬勵指導し得る事となつた、尙桐の移植は三四月が適期であると

締に關し伊藤知事及び小田警察部長から政府の方針を傳達、形式犯罪より買收關應等の惡質犯罪に

政界淨化の

對縣方針協議

柴田署長出席

柴田平署長は十三日午前十一時から縣會議事堂に開かれる縣下署長會議に出席するがこれは選擧取

櫻花・一色の平驛

縣社子鍬倉神社の祭禮と相俟ち

觀櫻客誘致の大宣傳

平驛では既報の如く町役場商工會、遊妓屋組合等とタイアップして觀櫻客觀迎に當ることになつたが愈々昨報の如くちらほらと咲き初めた櫻に誘はれてぼつ〳〵花見客の姿も見られる樣になつたため今日同驛ホーム待合室、出札所、その他全体に亘つて櫻花の裝飾をほどこし早くもお花見氣分をたゝよはせてゐるので同驛では各方面に美麗なチラシを印刷配布して觀櫻客誘致の宣傳を行つてゐる

便宜を圖ることになつた更に二十五日にも停車する豫定で、十八日には縣社子鍬倉神社祭禮も執典されるので同驛では各方面に美麗なチラシを印刷配布して觀櫻客誘致の宣傳を行つてゐる

そこうよ！
せまれらせらい

優良納稅組合

の　花の四月表彰

晴れの　平町で十五日擧行

平町の納稅表彰式は十五日午前十時から平町會議室で擧行、左記の如く表彰する

△優良組合六十三組　△優良管理者六名　△新設組合六組合

老哀を悲觀

婆さん縊死

平町新川町一七居住宮城縣柴田郡大河原町生れ古物商皆六母大友トクさん(八三)は七日午後三時頃家人の留守中自宅便所內で兵兒帶を梁に吊して縊死を遂げ居るを家人が發見平署で檢視したが同女は一昨十年四月にも縊死せんとして未遂に終つたことあり原因は老哀からの

磐女志願者

出身地別調

磐女出身地別調に於ける今年度入學志願者の出身地別は石城四四九、双葉二二、田村三、安積一、茨城五、宮城一、朝鮮一計四百八十二名であつたが此內合格したものは石城二三五、双葉一〇田村一、茨城二計二百四八名であつた

相談日程

決る

簡保健康相談日程

平地方簡易保險健康相談四月中の日程は岡井醫學士擔當の下に左記の如く決定した

十一日入遠野、十三日小名濱、十四日泉、十五日植田、十六日勿來、十七日田人

吉田眼科醫院

平町紺屋町　電話六八番

和洋家具

テーブル椅子

其他裝飾品一般……

御用命は迅速に御努め致します

製作販賣

諸官衙　各學校　御用達

㊫片寄製作所

平町五丁目四　片寄小彌太　電話四八四

肌が美しく若返へる……

（南洋特產パパイン酵素入）

ニ共パパコロン

專賣特許

本品の御常用はニキビ、ソバカス、シミを消し　スベスベとしたキメ細かな美肌を作るので評判です。

一本　35セン

三共株式會社特約代理店

西村屋藥局（平2）（電話3番）

末恐しい少年

辻强盜に卽決

卽決求刑通言渡された

既報一夜に三件の辻强盜を働き松ケ岡公園を徘徊中逮捕された內郷村大字白水字炭礦採炭夫佐藤武實(二)假名の公判は今八日午前九時から平區で中島監署判事係り櫻井檢事立會の下に開廷檢事から「年端もゆかぬに他人を威嚇して金品を强奪するとは末恐しい少年だ」と一年以上三年以下の懲役を求刑されたが判事から卽決求刑通言渡された

眞面目な貴樣が

"氣に喰はぬ"と

模範青年散々毆らる

好間村大字下好間字大舘染物業中村惣市(三)は去月二十八日夜十一時頃平町に來ての歸途同村大舘地內を通行中背後から來た同字蒸釜業赤松源二(三五)諸橋友治(四二)の兩名に呼はれたのを知らずに行き過ぎんとするや突然兩名が追ひすがつて『模範青年面して生意氣だクサモチ買ひにでも行つて來たのだろう』と罵りかゝつて散々殴打眼頭に全治一週間の傷害を負はせた他全身に傷害を負はせ今八日中村から兩名を相手取り平署に告訴を提起された

尙、中村は模範青年で現在まで再三表彰されて居り不斷から酒癖の惡い兩名は中村に反感を持つてゐたらめ泥醉して暴行を働いたものである

浮かれコンビ

兎角春は氣まぐれ者

別項、告訴された諸橋友治(四二)赤松源二(三五)の兩名はさきにも平町研町飲食店矢地モト方で藝妓を場げて遊興の際藝者の唄が下手なのが氣に喰はぬと散々暴行を働き平署に檢擧されたことのある浮かれコンビである

痴漢は

人絹の職工

昨日逮捕さる

既報去る二日午後二時半頃勿來町九面海岸地內で學校歸りの同町小學校四年生水野すみ(一)さん假名を襲ひ暴行を働き局部に美治二週間の裂傷を負はせて逃走した職工風犯人に就いて植田署では平署菊池部長刑事の應援を得て嚴重檢索中のところ犯人は同郡錦村昭和人絹工場職工須藤倉次(元)と判明、七日植田署に逮捕された

學校衛生の講堂會開催

學校衛生講習會」は來る十三日午前九時から平第一校講堂で本縣主催の下に開催されるが講師は學校衛生技手森田孝純氏、當日は郡下に於ける中等學校青年學校、小學校の各校長始め衛生並に体操科主任及び幼稚園長校醫學校看護婦等出席される筈である

御注意を……

改正稅法に依る

納稅者は個人所得の申告

第七十回帝國議會の協賛を經て過般公布せられた臨時租稅增徵法中第三種所得稅（個人分）に關し差當り納稅義務者として注意を要する點を擧ぐれば之れまで株式其他に對する配當所得の計算方法が配當金額より四割を控除した殘りの六割を所得としたのであるが、改正法では二割を控除して八割を所得と計算せらるゝことになつたので從來所得千二百圓以下の配當告を要せなかつた人々の中にも申告の必要ある向があると思ふ、一例を擧ぐると改正前に配當千五百圓あれば四割(六百圓)を控除し差引九百圓の爲め申告を要せなかつたのが改正法では二割(三百圓)丈の控除より認めないので差引課稅所得千二百円として計算せられ新に納稅義務が發生する譯である、斯かる該當者に對しては本年に限り四月十五日迄所得申告と共に扶養家族、生命保險料等の控除申請を稅務署へ提出すれば普通の三月十五日迄に申請した場合と同樣控除を受けることが出來るということであるから至急申告せらるゝ樣注意が肝要である、申告に要する用紙は稅務署又は町村役場へ申出つるとよい

學校長逝去

四倉小

新舊校長逝去

轢死男の

身元判明

昨報勿來町關內地內常磐線列車に飛び込み迷の轢死を遂げた大男は同町字

痴漢は

人絹の職工

昨日逮捕さる

（前項より續き）

既報の如く町役場商工會、遊妓屋組合等とタイアップして觀櫻客觀迎に當ることになつたが愈々昨報の如くちらほらと咲き初めた櫻に誘はれてぼつ〳〵花見客の姿も見られる樣になつたため今日同驛ホーム待合室、出札所、その他全体に亘つて櫻花の裝飾をほどこし早くもお花見氣分をたゝよはせてゐるので同驛では各方面に美麗なチラシを印刷配布して觀櫻客誘致の宣傳を行つてゐる

便宜を圖ることになつた更に二十五日にも停車する豫定で、十八日には縣社子鍬倉神社祭禮も執典されるので同驛では各方面に美麗なチラシを印刷配布して觀櫻客誘致の宣傳を行つてゐる

轢死男の

身元判明

昨報勿來町關內地內常磐線列車に飛び込み迷の轢死を遂げた大男は同町字

大高緋聞新村常太(廿七)と

判明原因は生活苦から

採し求めて歩いたが不明で消然歸鄉した

縣下互融會

第五回總會

第五回縣下互融會聯合會は十日平町に開き出席者寄多方三名會津五名深川三名福島五名、郡山二名で正午から平町才槌小路、石城中小商工互融會に集合、新舞子で中食、午後二時四倉港を視察、五時から平町住吉屋本店で總會後懇談會を催すことになつた尙十一日は午前八時に農間村沼之內、燈臺小名濱、湯本町入山炭礦を視察する

平商と第三

正副級長

平商及び平第三校は今八日新學期に於ける各學年の正副級長を左の如く決定任命した

△平商(一ノ甲)草野文勇　佐々千代藏(一ノ乙)寺門武彦　橋本克巳(二ノ甲)飯島登司　遠藤巍之助(二ノ乙)柴田二男　森淳(三ノ甲)中野一　鈴木道榮(三ノ乙)小野正雄　酒井精二(四ノ甲)志賀清　鷲見誠三(四ノ乙)荒川利夫　村上信(五ノ甲)佐藤滿憲　會田長太郎(五ノ乙)松島精　長瀬泰輔　東夫　岡井辰三(三ノ二)諸橋政良　佐々本芳弘(三ノ三)吉田綾子　新妻貞子(三ノ四)鈴木光子　根本瑠璃子(四ノ一)大條馨美　田口光男(四ノ二)根本正久　西野晃(四ノ三)多田井操　佐分利子(四ノ四)小野朔子　猪狩俊子(五ノ一)井上通　小熊榮一(五ノ二)小松茂正(五ノ三)稻沼高子　根本和子(五ノ四)多丸マリ子　小宅スミ(六ノ一)岩村怜　田邊昇(六ノ二)鈴木博士　志賀武夫(六ノ三)五十嵐由紀子　梅津文子(六ノ四)三森孝子　西野秀子

平町人事

回婚姻

△紺屋町三八當時內鄉村大字綴字舩下和田幸子さん(三ツ)

回死亡

△五丁目五根本二郎氏(四二)

△新川町一七大友トクさん(八三)

△立町五七小野寺雄さん(三ツ)

△一丁目二一當時內鄉村綴字舩下和田幸子さん(三ツ)

平職業紹介所報告

回求人之部

△女中　一五—二三才給迄給五圓

△漁業雜夫　一七—三〇才　迄給十二圓　高卒

△農夫　五〇才　迄年給五〇—一〇〇圓迄

回求職之部

△漁夫　三六、七才

△歩合

回寫眞見本

△看護婦　二四才　高女卒

△事務員　二四才　高卒

△事務員　三八才　高卒

今晩の部

JOHK

▼後六、〇〇物語「お靜さまのお誕生」京都　▼後六、二五鄉土講座　花まつり歸鄉　▼後六、三五講演「昭和十二年度豫算の概要」賀屋大藏次官　▼後七、三〇講演「會津地方の傳說」林毅陸　▼後八、〇〇あしべ踊「花もやう」南地雙妓連　▼後八、四〇獅子舞「宮城縣名取郡高館村青年團有志　▼後九、〇〇管絃樂　大澤善人の「路地からの斷章」日響　▼後九、三〇時報　ニュース　明日の話題　番組豫告

▼後六、〇〇物語「お靜さまのお誕生」京都　▼後六、二五鄉土講座　花まつり歸鄉　▼後六、三五講演「會津地方の傳說」林毅陸　▼後七、三〇講演「昭和十二年度豫算の概要」賀屋大藏次官　▼後八、〇〇あしべ踊「花もやう」南地雙妓連　▼後八、四〇獅子舞「宮城縣名取郡高館村青年團有志　▼後九、〇〇管絃樂　大澤善人の「路地からの斷章」日響　▼後九、三〇時報　ニュース　明日の話題　番組豫告

明日の部

▼前一〇、三〇家庭講座「兒童の榮養に就て」梅良造　▼後〇、〇五箏曲「春風賦」「櫻狩」村田松泉他　▼後〇、三〇謠民歌謠「夜明けの歌」「胡蝶」吉村　▼後一二、三〇家庭講座「家庭婦人に必要な看護の知識」保良せき　▼後六、〇〇出來るまで「コード」お話　物の西脇乃夫彦　▼後六、二五俚謠講座「東北地方」後藤桃水　▼後七、三〇東西花めぐり「箏曲」花の宴」荻原正吟他「感旅」送京洛花だより」ハラヂオドラマ「北政所」三好榮子他　ラヂオオペレツタ「朝から晩まで」德山璉他　▼後九、〇〇時事解說「總選擧の意義と國民の覺悟」河原田內相「最近の歐洲の政局」山路章

學校長篠原(新)菊地(發)兩氏の歡送迎會

學校長篠原(新)菊地(發)兩氏の歡送迎會は六日同町海氣館で開き盛會であつた

熊谷氏夫人逝去　平第二校訓導熊谷保高氏キミ子夫人は過般來病氣療養中の所昨夜遂に永眠された葬儀は明後十日五丁目

平商と第三

正副級長

平商及び平第三校は今八日新學期に於ける各學年の正副級長を左の如く決定任命した

△平商(一ノ甲)草野文勇　佐々千代藏(一ノ乙)寺門武彦　橋本克巳(二ノ甲)飯島登司　遠藤巍之助(二ノ乙)柴田二男　森淳(三ノ甲)中野一　鈴木道榮(三ノ乙)小野正雄　酒井精二(四ノ甲)志賀清　鷲見誠三(四ノ乙)荒川利夫　村上信(五ノ甲)佐藤滿憲　會田長太郎(五ノ乙)松島精　長瀬泰輔　東夫　岡井辰三(三ノ二)諸橋政良　佐々本芳弘(三ノ三)吉田綾子　新妻貞子(三ノ四)鈴木光子　根本瑠璃子(四ノ一)大條馨美　田口光男(四ノ二)根本正久　西野晃(四ノ三)多田井操　佐分利子(四ノ四)小野朔子　猪狩俊子(五ノ一)井上通　小熊榮一(五ノ二)小松茂正(五ノ三)稻沼高子　根本和子(五ノ四)多丸マリ子　小宅スミ(六ノ一)岩村怜　田邊昇(六ノ二)鈴木博士　志賀武夫(六ノ三)五十嵐由紀子　梅津文子(六ノ四)三森孝子　西野秀子

白柄劍風連

大島多慶夫作

井川洗崖畫

布施長壽(發)村瀨幸映(發)

（森上談と挿畫）

……一二……

この妻と子

（六）

"氣に喰はぬ"と言つてゐるない五尺餘りの兒の乙松は、いかにもそれを證明しようと云はやつて、めそめそべそをかき始めたのであつた。

生憎、下駄の鼻緒も切れた日に限つて一文も持合せがなかつた。乙松は乙松の小さい心臟が潰れるほど泣いてゐた。

そして鼻緒をすげて貰いたいけれども、鼻緒がないのでどうすることも出來ないので、泣いてゐるうちでは出掛きに招きながら家へ歸りたくなかつたと云つた。

『坊つちやん家へ寄りませう』

と、乙松は慰めようなどの言葉と共に、乙松の手を引いて歸りかけた。

乙松は泣きながらもつゝましさを感じて、おろ〳〵歩いてゐた。

と、乙松は泣き止に困つた。

『さ。泣くのは止めて下さい。』

と、乙松の坊つちやん。私は坊つちやんに泣をとつさりと濟ませます』と、乙松の手へ鼻の袖と小袖を渡した。そして、

『坊つちやん。さあ坊つちやん泣を拭げませう』

と、乙松は袖を鼻に入れて小袖と一緒に拭つて見せた。

乙松はすこし遊つたが、乙松の容子が遊び盛りでもなさゝなのでそろり〳〵と乙松を背中に負ふたまゝ門前へ歸つて來た。

『さ。坊つちやん。私は坊つちやんに泣をとつさりと濟ませます』と、乙松の手へ鼻の袖と小袖を渡した。そして、

『坊つちやん。さあ坊つちやん泣を拭げませう』

と、乙松は袖を鼻に入れて小袖と一緒に拭つて見せた。

乙松はすこし遊つたが、乙松の容子が遊び盛りでもなさゝなのでそろり〳〵と乙松を背中に負ふたまゝ門前へ歸つて來た。

『さ。坊つちやん。私は坊つちやんに泣をとつさりと濟ませます』と、乙松の手へ鼻の袖と小袖を渡した。そして、

『坊つちやん。さあ坊つちやん泣を拭げませう』

と、乙松は袖を鼻に入れて小袖と一緒に拭つて見せた。

乙松はすこし遊つたが、乙松の容子が遊び盛りでもなさゝなのでそろり〳〵と乙松を背中に負ふたまゝ門前へ歸つて來た。

『さ。坊つちやん。私は坊つちやんに泣をとつさりと濟ませます』と、乙松の手へ鼻の袖と小袖を渡した。そして、

『坊つちやん。さあ坊つちやん泣を拭げませう』

と、乙松は袖を鼻に入れて小袖と一緒に拭つて見せた。

乙松はすこし遊つたが、乙松の容子が遊び盛りでもなさゝなのでそろり〳〵と乙松を背中に負ふたまゝ門前へ歸つて來た。

吉例

大相撲

本場所

四月場所

番附

キネマ旬報

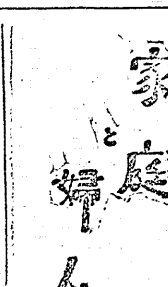
八日

演『お化け花嫁』赤爾子、甲斐世津子、松本泰輔、原聖四郎、舟波邦之介主演『潮來小唄』松竹二大名作『新道』『春姿五人男』近日公開『春姿五人男』近日公開（料金一〇セン）

△世界館　毛利峯子、立松晃の甘い〳〵新婚明朗篇トーキー『美人自殺傳』小笠原章二郎主

△平　館　ワーナーナショナル超大作ナリヂナル全發聲日本版『海賊

家庭と婦人



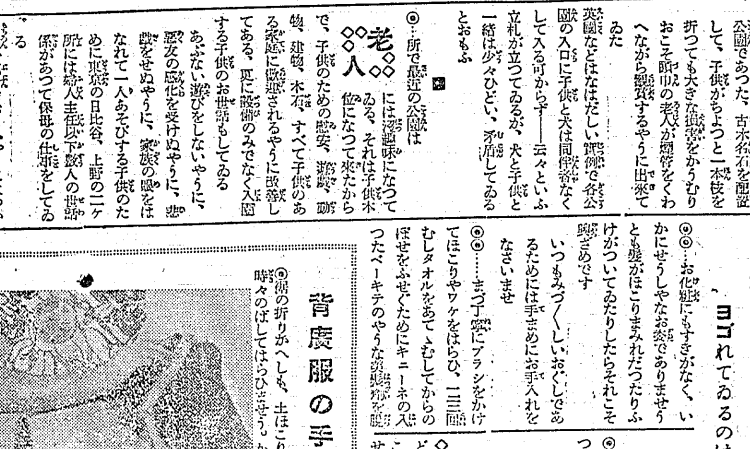
母と子

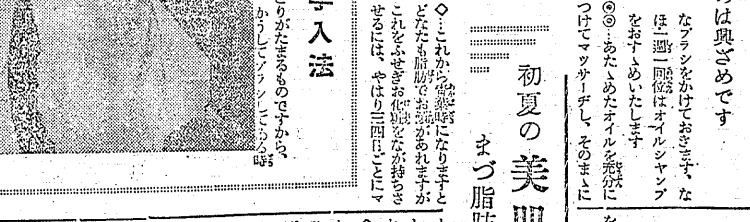
小寺菊子

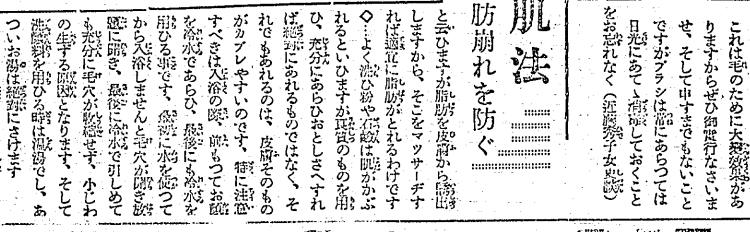
こゝのひと憎くも自殺したる隣家の新七日の法要にあつまつたとき、殺多い支那事變を前にならべた卓に向ひ合つた中年のお母さんと息子の話。金ボタンの息子は十九歳で、もう××大學の學生、髪をきれいに分けた間抜け顏とそつくりな一人前の背廣姿です。この背廣、お母さんが裏服の袖からつくろひ直すと見るやすくに自分のまへにあつたマッチを取つて火をつけこの息子さんだとよく見てゐると、今度は息子さんがポケットから煙草の袋の花の意匠をした乙女の繪のやうにうつくしいチェリーの箱をだしました。すると、お母さんは早速又自分の袖にあつたマッチをすつて、「僕かんな指の間にはさまれた息子のチェリーに火をつけてやるのでした。私はさつきよりももつと〳〵感心するとお母さん迄「どうせのみたいものなら親がとめたつて止めてもむだでせうから私は一切關ひつぱなしにしてもらふことにして居ります。大きくなるとお母さんとはなれて内緒の事なんかされてはたまりませんからね。お母さんをもらふまではいつもお母さんとぴつたり心が合つてゐなくてはこまりますこれでなくては折角生んだ甲斐がありませんからね」とやさしい中に理解のふかい調子でこのお母さんは朗かに語るのでした。なんと和やかな母子風景だつたでせう。

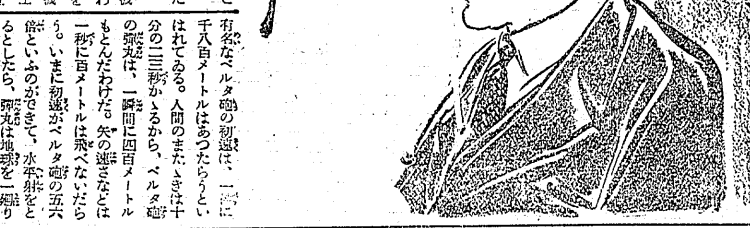
公園は家庭の延長

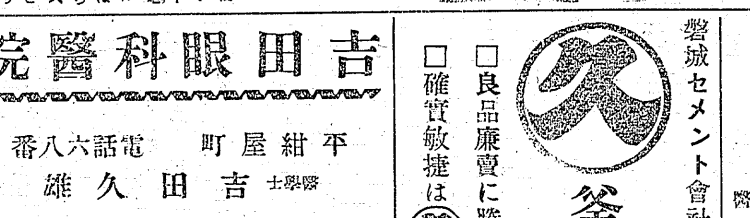
小供を遊ばせよ

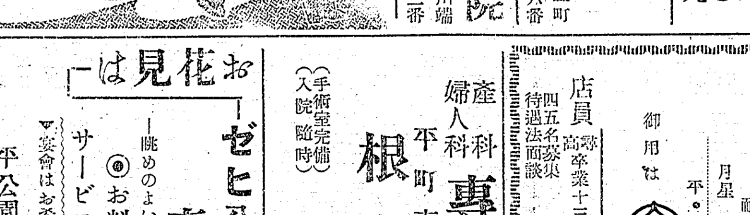


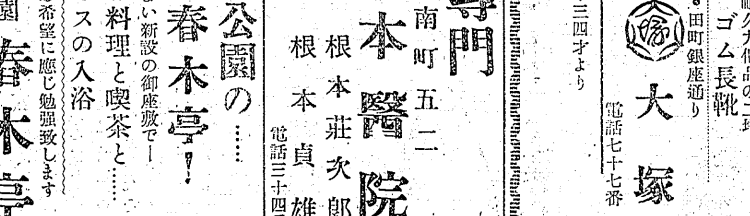


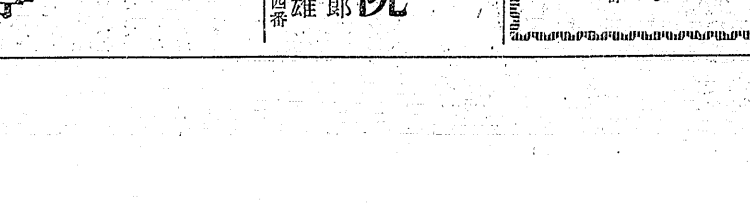












髪はきれいですか

ヨゴれてゐるのは興ざめです

◎……お化粧にもすきがなく、いかにせうしやなお姿でありませうとも髪がはこうまみれだつたりふけがついてゐたりしたらそれこそ興ざめです

◎……あたゝめたオイルを髪全體につけてマッサーヂし、そのまゝ二時間位はオイルシャンプをおすゝめいたします

◎……まづ子供にブラシをかけてほこりやゴミをはらひ、二三回むしタオルをあてゝむしてからのほせをふせぐためにキューネの入つたベーキングのやうな洗髪粉を髪全體にふりかけて、土ほこりがたゝないやうにしてブラシにこびりついてゐるのですから、ブラシをかけるまへに一度ぬるま湯でよくブラシを洗ひ、ポケット口、ズボンの折りかへしの中